



〈「縄文のムラを探検してみよう」の様子〉

〈宇都宮市「うつのみや遺跡の広場」〉

「第14期 まほろん森の塾」

「まほろん森の塾」は、小学4年生から中学生を対象に、「昔の暮らしと技術について一連のメニューを体験して、自らが“生きる力”を身につけるとともに、歴史を学習する。」ことを目的とした通年型の体験学習の一つです。第14期の今年度の塾生は、小学4年生から6年生の8名で、年間6回にわたり活動しています。

第4回(9/6)には、「縄文のムラを探検してみよう」と題し、まほろんを飛び出して、栃木県宇都宮市の「うつのみや遺跡の広場」へ「館外体験学習」に行きました。まほろんから車で約1時間半の所にある「うつのみや遺跡の広場」には、縄文時代前期(今から約5,500年前)のムラの跡が復元されており、今にその姿を伝えています。前回(7/12)、「縄文時代の生活」について事前に学習した塾生たちは、この探検をとっても楽しみにしていました。

実際に復元された建物などを目にし、「建物の大きさやつくりの違いがあるのはどうして?」「この建物は何をするためのもの?」「なぜ広場をつくったの?」など、自分たちが暮らす現代との違いや、「ドングリはどうやって食べたの?」「この耳飾りはどうやって作ったの?」など縄文人の食生活や技術について様々な疑問が生まれました。それに対する自分の考えを、担当した職員の方に話したり、質問をしたり、生き生きと活動する姿が見られました。また、昨年度から継続して参加している塾生もおり、その成長ぶりも窺えました。

第5回(10/11)には、この活動の成果をまとめ、第6回(12/13)には、保護者の方に向けて活動の成果を発表する予定です。

体験学習

実技講座「縄文ポシェットをつくろう」

「縄文ポシェット」とは、青森県^{さんないまるやまいせき}三内丸山遺跡から発見された、植物の樹皮^{じゅひ}で編んだ縄文時代の編みカゴのことです。



＜横芯を編み込んでいる様子＞

8月2日（土）に行われ、7名の方が「縄文ポシェット」をモデルとして、クラフトテープで作成しました。底部から

実技講座「古代の染色にちょうせん」

8月9日（土）に、まほろん古代の畑で栽培している「タデアイ」で藍の生葉染め^{なまぼろ}を行い、17名の方が参加しました。タデアイとは、今から約1,400年前（飛鳥時代以前）に、染色技術と共に中国から伝わったとされる植物です。

講座では、タデアイの葉の摘み取りから染液づくり、絹布（スカーフ）に絞り染めするまでを体験しました。

絹布を染液に浸した後、日光にさらすと、徐々

実技講座「鹿の角で装飾品をつくろう」

9月14日（日）に、実技講座「鹿の角で装飾品をつくろう」を開催しました。

縄文時代の人々は、土器や石器だけでなく、動物の骨や角を材料とする道具（骨角器）も使っていました。今回の講座では、7名の参加者が、鹿の角を加工して髪飾り（ヘアピン）をつくりました。

受講者は、鹿の角の堅さや削った際に出る臭いなどを実感しながら、縄文時代の生活や文化について学習しました。

胴の順番^{あじろあ}に網代編みでつくりました。単純なようですが、結構難しい作業です。参加者の表情は、真剣そのもの。会場は、熱中するあまりシーンと静まり返る場面もありました。

参加者それぞれの「縄文ポシェット」は、愛着のある一品になったようです。『ペットボトルホルダーにちょうど良いですね。』という声や『縄文人もこのようにして、縄文ポシェットを編み込んでいたのですね。』という、縄文時代の技術の高さに驚く声も聞かれました。

に生葉染め特有の「縹色（薄い青色）」に変化しました。これには参加者も、「うわあ、すごい！」と感動した様子。出来上がった作品を手に、とても嬉しそうでした。



＜きれいな“縹色”に染まったスカーフ＞



＜鹿の角を一生懸命削っている様子＞

館外学習支援

本年度のおでかけまほろん

「おでかけまほろん」では、当館職員が土器や石器などの出土品や体験学習器材などを持参して、小・中学校と連携して授業に参加します。本年度は、特別支援学校を含む44校を対象に実施しますが、9月末時点で34校が終了しました。

この中から、5月1日に実施した須賀川市大森小学校5・6年生の授業の様子を紹介いたします。今回は、社会科の授業として、土器さわり・火おこし・弓矢・時代衣装を着る体験を行いました。はじめに、まほろん職員が学校周辺にある遺跡の説明をした後、県内から発見された土器や石器、斧・弓矢な

どの復元品や動物の毛皮に触れ、さらに貫頭衣^{かんとうい}を着用する体験を行い、子供たちにとっても好評でした。

来年度の「おでかけまほろん」の募集は、2月頃に行う予定です。募集にあたっては、まほろんホームページでご案内いたしますので、ぜひご覧ください。



＜大森小学校でのおでかけまほろんの様子＞

企画展示案内

被災文化財復興展

「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」

会期：平成26年10月4日(土)～平成27年1月12日(月)

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

東日本大震災と原発事故の影響で避難区域となった地域には、多くの文化財が取り残され、これらをどう守っていくかが大きな課題となっています。

これら避難区域の文化財のうち、双葉町・大熊町・富岡町の3町の各資料館から救出された文化財の多くが、現在、まほろん敷地内の仮保管施設に収納されています。今回の被災文化財復興展では、その一部を展示・公開します。



＜ダルマ（双葉町歴史民俗資料館所蔵）＞

双葉町のダルマ市は、毎年1月に開催される町を代表する伝統行事です。今回は、そのダルマ市のために製作されたダルマも展示します。今回展示する

文化財講演会

文化財講演会Ⅱ「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」

指定文化財展の開幕にあわせた文化財講演会を、7月19日(土)に開催しました。「ミスター三内丸山」とも呼ばれる青森県教育庁の岡田康博氏を講師に迎え、第1部で講演、第2部で岡田氏と菊池館長との対談を行い、多数の参加者にお出でいただきました。

第1部では、縄文時代のイメージを変えたともいわれる、三内丸山遺跡の最新の研究成果について分かりやすく解説され、また、「北海道と北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた運動とその経過を紹介していただきました。

第2部では、農耕も牧畜ももたない、世界でも独特な文化をもつ縄文時代を、海外の人々にいかにアピールするかが世界遺産登録への鍵になることなどが討論されました。



＜対談の様子（岡田氏〔左〕・菊池館長〔右〕）＞

大熊町の道平遺跡で出土した縄文土器は、縄文時代終末から弥生時代への移り変わりを示す資料です。



＜縄文土器（大熊町民俗伝承館所蔵）＞

富岡町の算額は、江戸時代に算数の難問を解いた記念に神社に奉納されたものです。

このほか、今回は、双葉郡の暮らしや生業、長い歴史の中で培われた文化、そして歴史的風土について実感して頂けるように、3町の各資料館から救出された考古資料・古文書・絵画・民具など、多種多様な資料を展示します。

双葉郡の文化と歴史的風土について学ぶ貴重な機会ですので、是非ご観覧ください。



＜算額（富岡町歴史民俗資料館所蔵）＞

研修だより

文化財研修「教職員等発掘調査体験研修」

8月5日(火)～7日(木)の3日間にわたって実施しました。この研修は、教職員や



＜広野町宮田条里遺跡での様子＞

市町村教育委員会職員などを対象として行う研修で、発掘調査を体験し、それによって得た経験を教育現場などで役立てていただくための研修です。

今年度は、広野町宮田条里遺跡を会場に2日間の発掘体験を行い、3日目はいわき市久世原館跡といわき市考古資料館を見学しました。宮田条里遺跡では、検出作業と溝跡の掘り込み作業や遺構の写真撮影など、発掘調査の各工程を体験しました。3日目の見学では、久世原館跡で図面作成の方法を、いわき市考古資料館で発掘された資料が報告書として刊行されるまでの手順を解説していただきました。

この研修で、発掘調査の一連の流れを理解することができ、充実した3日間になりました。

次年度以降も参加をお待ちしております。

まほろんイベント

「まほろんを描こう」

9月13日(土)～15日(月・祝)の3日間、まほろんのいろいろなものを自由に描いてもらうイベント、「まほろんを描こう」を開催しました。文化財に親しみ、より理解を深めてもらうことを目的に毎年行っているもので、今年は43名の方々にご参加いただきました。

今回は、ハガキに描く「絵てがみ部門」と、画用紙に描く「絵画部門」の2部門を設けました。「青い空を描きたい!」と、絵てがみ部門に参加してくれた5歳の女の子は、縄文時代の家と青い空を見事に描いてくれました。

に描いてくれました。

作品は館内に展示し、来館者投票等を経て(9/19～10/13)、入賞作品を決めます。力作ぞろいです!是非ご覧ください。



〈絵てがみ部門参加の女の子〉

シリーズ収蔵品紹介 19

いわき市大猿田遺跡出土の木簡

大猿田遺跡は、常磐自動車道いわき四倉インターチェンジ建設に先立って発掘調査が行われた遺跡です。8世紀代の木製品・伐採木・加工木が大量に発見され、古代磐城郡が経営した木器生産地であったと推定されています。

ここに紹介する木簡は、長さ約10cm、幅1.2cmほどの大きさです。中央付近で割れているため、本来の幅は2cm程度だったものと思われます。

オモテ面の下方左半分に「少丁一」という文字が書かれています。「少丁」とは、大同元年(701)施行の大宝律令に定められた「17歳から20歳までの男子」のことで、「正丁(21歳から60歳までの男子)」の四分の一の租税負担が義務付けられていました。「少丁」という呼び名は、天平宝字元年(757)施行の養老律令で「中男」と改められますので、この木簡は701年から757年までの間のものであることがわかります。

「少丁一」の上には、「判祀十六」という文字が記されているようです。いわき市の小茶園遺跡からは「判祀郷」と書かれた木簡が出土していますので、「判祀」とは古代磐城郡内のムラ単位の一つを意味する

と考えられます。

このことから、この木簡に記された内容は、大猿田遺跡の一带で木器生産作業に従事する16名を派遣するよう、古代磐城郡の役



〈大猿田遺跡出土 木簡〉

所が判祀郷に伝えたものであったと推測されます。16名のうち1名は少丁と定められているので、欠けている部分には「正丁十五」と記されていた可能性が高いこととなります。

命令にしたがって判祀郷から大猿田にやってきた農民は、この木簡を現地に持参し、役人のチェックを受けたものと思われます。木簡ウラ面にある墨痕は、間違いなく16人が着任したことをチェックした目印でしょう。

大猿田遺跡からは、このほかにも多くの木簡が出土しており、古代の情景を生々しく想像させてくれます。(学芸課長 本間 宏)

まほろんからのお知らせ

今後のまほろんイベント

まほろんでは、秋から冬にかけてイベントが目白押し!まほろん秋まつり(11/3[月・祝])、まほろんもちつき大会(12/7[日])、まほろん双六大会(1/18[日])、まほろん冬まつり(2/15[日])などなど。

まほろんイベントで、寒い季節を乗り切ろう!



ご利用案内

開館時間	9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月3日)
入館料	無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)
その他	団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。